

Y22c           **教育用低分散分光器の開発**

河北秀世，吉川智裕，池田優二，中道晶香，藤代尚文 (LLP 京都虹光房 / 京都産業大学)

京都産業大学理学部物理科学科では，観測天文学実習や卒業研究として神山天文台の口径 1.3m 荒木望遠鏡を用いた教育を行っている．この場合，学生に対する教育効果をより高めるため，どのような観測装置が望ましいであろうか．この種の問題は，他大学でも (場合によっては高校などでも) 同様であると私達は考えている．私達は，構造が単純であり学生にとって理解しやすいことに加え，小型ながらもそれなりの (十分に研究利用に耐えうる) 性能の分光器が切望されていると考えている．しかし，高校や大学において，現在，安価に入手できる市販の分光器では，観測中にスリットの状態が確認できないものや，スリット幅が日本国内のシーイングにマッチしておらず比較的狭いスリット幅のものが多く，特に，小型の望遠鏡の多くがそうであるように追尾精度が十分でない場合には，観測中にスリットの状態を確認できることは効率の面からも重要である．そこで我々は，口径が 30cm ~ 50 cm クラスの望遠鏡を対象に，低コストかつ，教育面 / 研究面で十分に活用可能な低分散分光器の仕様について検討し，その開発を行ってきた．発表では，その経過および具体的な教育プログラムの検討結果について報告する予定である．